

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A:	十分達成できている
B:	おおむね達成できている
C:	やや不十分である
D:	不十分である

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上については、重点指導内容を共通理解して実践した。また、毎週2回、朝の時間に「国語チャレンジ」「算数チャレンジ」を、年に2回「漢字フェスタ」「計算フェスタ」の取組を 実践したことにより、基礎的・基本的な学力の定着が図られ、学習状況調査において良い結果が出た。授業力の向上と学習内容の定着を意識した取組の成果だと捉える。保護者ア ンケートにおいても、本校の教育活動について全項目で「できた」「だいたいできた」の評価が90%以上であり、学校関係者評価においても、高い評価を受けた。</li> <li>・本校児童の課題である表現力の向上、主体的な活動について教師が課題を共有し、解決の方策を考え取り組んだ。特別活動の領域において校内研究として取り組み、表現力の向 上や話し合い活動の充実など児童が活躍できる場作り、活動内容の検討などを進め実践した。今後は今年度の研究内容を生かしながら、学級経営や授業力向上について技量を高 める取り組みを進めていく。</li> <li>・個に応じた教育、特別支援教育には保護者、学校関係者評価においても高い評価を得ている。児童に寄り添い、全職員で見取り、情報共有することにより、今後も個に応じた支援・ 指導を充実させていきたい。</li> <li>・コミュニティスクール・地域学校一体型教育における取組は、今年度も充実した活動になり、学校だよりを通じて発信することができた。今後も、地域と連携し、保護者とともに教育活 動を行っていくためにも、社会に開かれた教育課程を実践し、保護者や地域との情報共有、学校の取組の発信などを進めていく必要がある。</li> <li>・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、行事等を見直す会を2回開いて検討するなど、業務の精選をしていったことが勤務時間の削減につながった。また、見直しを 持って業務に取り掛かることができるよう意識付けをしていくことで、職員が効率的に業務を推進していくことができた。</li> </ul>
<b>2 学校教育目標</b>	<p>「自分・学校・家族・地域の幸せを願い、志を持ち学び続ける北明っ子の育成」</p> <p>◇ かしこく(知):確かな学力・知恵を磨く ◇ やさしく(徳):しなやかに人と関わる力を培う</p> <p>◇ たくましく(体):健康で元気な心身を育む</p>
<b>3 本年度の重点目標</b>	<p>○生き生きと学習に取り組み、自分の考えや思いを伝え合い、学び合う児童の育成。</p> <p>○人と協調し、人を思いやる心の育成○人と関わる力の育成○感謝する心と学校や郷土を愛する心の育成</p> <p>○望ましい健康生活の習慣化、学校体育の推進○食育の推進と性教育の実施○防犯・安全教育の推進○特別支援教育、教育相談 の充実</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○(学校独自重点取組) 学習内容の定着に向けた分かりやすい 授業の実践	○(学校独自重点取組) 「授業中は自分の考えをもち、友達に伝 えることができた。」と回答した児童9 0%以上	・自治能力を高めるために、全教科半分 以上の教科において「話し合う活動」を 設定する。	A	・「授業中は自分の考えをもち、友達に伝える ことができた。」と回答した児童は91%で、目 標値に達成した。中間期の反省をもとに、全 教科において、グループやペアでの「話し合い 活動」を多く仕組むことで、話すことへのハ ードルが下がったとみられる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動	○心の教育に係るアンケートにおいて肯 定的な回答をした児童90%以上	・人権集会(人権講演会)を実施し、人権 に対する意識を高める。 ・心の教育に係るアンケートを実施し、意 欲を高める。 ・「たすきコーナー」(児童の認め合い)を 活用し、児童の自己肯定感を高める。	A	・「思いやりの心をもち、みんなと協力するこ うできた。」と88%の児童が回答した。人権標 語の取り組みや人権集会等で当事者の方の話を 聞くことで、相手を思いやる気持ちや自分 にできることを考え行動しようとする意識を 高めることができた。 ・「ほかほかの木」の活用は、書く相手の学 年によって用紙の色をかえたことで、「ほかほ かの木」の前で立ち止まる姿をよく見かけら れた。また、児童と先生のやり取りも見られ た。
	●いじめの早期発見、早期対応に向け た取組の充実	○「いじめ防止等(いじめの定義、いじめ の防止等)のための取組、事案対処等」 について組織的対応ができていた」と回 答した教員85%以上	・毎月心のアンケートや教育相談週 間の実施、Q-Uにより児童の実態把握に 努め、情報共有と早期対応を図る。 ・いじめの対応についての研修・会議を 夏季休業中および随時行う。	A	・かがやく北明っ子教師のふり返りで、い じめ防止等について、組織的に対応ができて いると回答した職員は88%だった。 ・教育相談週間を年に2回実施し、6年生に はSCによる個人面談も実施した。またQ-U の職員研修を今年度は1回目の後だけでなく、 2回目の後にも行い児童の実態把握を行うこ うできた。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実 現に向けて意欲的に取り組もうとするた めの教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてく れていると思う」と回答した児童85%以 上 ●「将来の夢や目標を持っている」につ いて肯定的な回答をした児童80%以上	・様々な場面で児童の良さを称賛し、児 童の良さを生かした活動に取り組ませる。 ・キャリアパスポートの活用や様々な学 習活動を通して、目標やめあてを立て、 振り返ることにより、自分自身の成長を 感じられるようにする。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれ ている」について肯定的な回答した児童は92%。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯 定的な回答をした児童は92%であった。 ・学年に応じてキャリアパスポートを活用し、 行事等で目標やめあてを立て、振り返る活 動に取り組むことができた。また、その後の自 身の成長を感じることもできた。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力 の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育 成」	○「かがやく北明っ子アンケート」の「給 食は残さず食べ、健康に良い食事をして いる」と回答した児童90%以上	・養護教諭による指導を行い、生活習慣 を整えること意識を高める。 ・教師や養護教諭による食育を行い、食 に関する意識を高める。	A	・栄養教諭と養護教諭による食育指導は、 2年生では「好き嫌いをなくしよう」、3年生 では、「朝ご飯」、4年生では「おやつ」につ いて実施できた。 ・「かがやく北明っ子アンケート」の「給食 は残さず食べ、健康に良い食事をしてい る」と回答した児童は、95%を越えていて、 十分に達成できた。
	○安全に関する資質・能力の育成	○「登下校において、自分で安全に気を 付けている」と回答した児童85%以上 ○「避難訓練」において、自分で考えて行 動できた」と回答した児童90%以上	・登校の様子を振り返り、毎学期1週 間行わせ、自分で安全に気を付けて登 校する意識を持たせる。 ・避難する際の注意事項について事前 指導を行い、訓練後には自分の行動に ついて振り返らせ、アンケートをとる。	A	・登校において、「自分で安全に気を付けて いる」と回答した児童が88%であった。安全 に対する意識を持って登校ができていた。し かし、前期と比較して1%低下していたので、 今後も引き続き登校について声掛けを行っ ていきたい。 ・避難訓練において、「自分で考えて行動 できた」と言う児童が98%であり、成果指 標を上回ることであった。実際に地震が起 きた際も、揺れが収まるまで机の下で待機 するなどの行動を取ることができ、防災意 識の向上が見られた。
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時 間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守する。 ○夏季休業や冬季休業の完全休業日を 生かし、年次休暇の取得職員1人当たり 14日以上	・勤務、メンタルヘルスの研修を実施す るとともに働き方改革についての意識向 上のために定時退勤日を設定し、常に 声掛けを行う。 ・会議や行事等に向けて、見直しを持 って業務に取り組むことができるよう進 捗状況を確認する。	A	・月平均時間外業務時間は、7月～9月は約 16時間、10月～12月は約24時間となっ ており、中間評価の時間(約33時間)と比 較すると減少しているため、改善しているこ とが分かる。10月に運動会、12月に150 周年記念式典と大きな行事を実施した が、45時間を越える時間外勤務の職員は1 名だけであった。 ・「業務の効率化」への職員アンケートは 89%から88%へ、「職員間の風通しがよい」 は100%から94%へと減少している。困 りごとを一人で抱え込まないようにチ ーム北明で取り組めるよう、互いの 声かけやプロジェクト機能を高めたい。
●特別支援教育の充実	○支援が必要な児童への適切な支援に ついての全職員による共通理解と実践	○年2回、職員に対して意識調査を実施 し、「特別支援体制が機能している」と回 答した教員90%以上	・個別の教育支援計画、指導計画を確 実に作成し、前後期で振り返りをして 改善をする。 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・月1回の児童理解支援会を実施し、全 職員で共通理解と支援にあたる。	A	・計画や研修は実施できたが、それを生か した継続的な支援が全体的に見ると、十分 でなかった。 ・全職員で子どもの支援の必要性、課題を 深く見ることが必要であることを感じる。 ・ケース会や保護者との連携は、しっか り行うことができたので支援体制をとるこ うできた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
○夢中になって取り組む児童を育成 するために、教師の学習指導力と学級 経営力の向上を目指す。	①学びを仕組む指導力と児童の実態を 見つけ分析したり、実態に応じた学びの 環境づくりを工夫したりする学級経営力 の向上 ②めあてに向かって自分の見通しをも って試行錯誤を楽しむ児童、前向きに学 びに向かい成長を実感することができる 児童の育成	①「授業づくりの向上」「ICT等を利用 した授業づくり」への教員の回答が90% 以上 ②「授業中は先生や友だちの話をよく聞 いた」「パソコンやタブレットを使った学 習に、意欲的に取り組むことができた」と 回答した児童90%以上	・校内研で教員のニーズにあった研修を 計画し、指導力向上を図る。 ・学級の実態や教科の特性に合わせた 授業実践や学級づくりを共有する。	A	・学級経営についての研修では、学級の実 態を全職員で共有し、改善点や今後の具 体的な取り組みについて話し合うことが できた。 ・講師を招いて提案授業と授業研究会を 行い、「めあてに向かって自分の見通し をもち、試行錯誤を楽しむ児童の育成」 のために、どのような手立てをとればよ いのかを話し合い、今後の取り組み方 について全職員で共有することができ た。 ・成果指標の②については、どちらも 数値目標を上回っている。

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・めあてに向かって自分の見通しをもち、解決の糸口を探るための試行錯誤を探るような児童を育てるために手立てを話し合った。多様な考えを比較・検討させることで児童の思考をつ ながりファシリテーターとしての役割や価値付けを図る方法、学級経営について改善策を実践している。91%の児童が「自分の考えを伝えられた」と回答しており、今後も模索していき たい。ICTの効果的な活用を各教科の特性や学年に応じて推進した。意欲的に取り組む児童は99%、教職員のICT活用は73%から94%と向上した。提示用資料の活用による 「視覚的な理解の促進」に加え、学習支援ソフトを用いた「意見の即時共有」など、対話的な学びを支えるツールとしての定着を図り、今後も、学習効率と定着度を高める授業改善を 継続する。 ・人権教育や「認め合い」の活動を通じ、98%の児童が「思いやりの心」を実感している。「ほかほかの木」活用による他者からの価値付けも効果的であった。また、食育(95%)や防災意 識(98%)の向上も顕著であり、自分や他者の生命を大切にすることを意識が育まれている。 ・Q-U結果を活用する研修や子どもの気になる行動について考える研修などを実施し、支援を要する児童が学習に見通しをもてるような手立てなどを考える機会とした。毎月1回 「児童理解」の会議の時間を設け、全職員で指導の状況に関する共通理解を深めた。教職員の88%が体制に手応えを感じており、個に応じたきめ細かな支援が組織として機能してい る。 ・教育活動の充実を図る一方で、教職員の心身の健康保持に向けた勤務時間の適正化に努めた。今年度は人員が1名減少したことで、一人に係る負担は増加している。「150周年 記念行事」の実施に伴う準備時間の確保が必要な時期もあった。業務の精選により、時間外勤務は月平均20時間前後で推移した。現状の勤務状況を改善できるよう、今後も教職員 間の連携や効率的な校務運営を推進し、地域・保護者から一層信頼される学校づくりに邁進する。</p>
-----------------------	--